

# えぬびい! Oh!

2018

冬

Vol. 70



▶2P~3P  
居場所・帰る場所としての「とさっ子タウン」  
~とさっ子タウン10周年~

▶4P~5P  
98 高知豪雨から20年  
~真価を問われる災害支援の進化と深化~

▶6P  
空き店舗を利用した昔懐かしいお店を再現  
~昭和の時代にタイムスリップ「糸びす昭和横丁」~

▶7P  
ボランティアと出会う場所  
~ボランティアガイダンス2018~



# 居場所・帰る場所としての「とさっ子タウン」

## ～とさっ子タウン 10周年～

とさっ子タウン10周年にあたり、2018年の実行委員会の委員長を務めた高知県立大学社会福祉学部2回生の半田唯衣はんただゆいさんに寄稿いただきました。  
(森岡)

### ■はじめに

私がとさっ子タウンに初めて参加したのは2009年。当時小学5年生だった私は、もちろん市民としての参加でした。当時のことを思い出すのは困難ですが、とても楽しかったことは覚えています。市民として参加したのは、その年と翌年の2年間。

中学生の間はこの事業には参加していませんでしたが、高校1年生の時に当日ボランティアとして参加したのが、この事業に深く関わることになった始まりでした。  
きっかけは、NPO活動をしている父の「こんなボランティア募集しゅうけどやってみる？」という一言でした。それからこの事業の世界に惹き込まれ、今年でスタッフとして関わり始めて5年目となります。

### ■とさっ子タウンって？

とさっ子タウンは、毎年夏休みに2日間だけ現れる架空のまちです。このまちの市民は、小学4年生から中学3年生までの子どもたち。子どもたちは、このまちで自ら働いて、お給料をもらい、税金を納め、そのお金で遊んだり、食事をしたり、買い物をしたりします。私たち大人は、あくまで子どものサポート役。子どもたちが自分たちでまちをつくり、運営をしています。

### ■私にとって

実行委員として参加2年目から昨年までは、自分のやってみたいという思いから副実行委員長を3年間やらせていただきましたが、10周年という節目の今年に、私は実行委員長を務めさせていただきました。

実行委員長をやると決めた時の目標は、1年間を振り返った時に、笑って「良かった！」と言えることでした。

本番中の私の役割は、とさっ子タウンマスコットキャラクターの「しばてん」としてまちに存在すること。誰よりも全体を見ることができ、たくさん

の子どもたちに関わることのできるポジションです。

本番中はまちの中で、子どもたちはもちろん、実行委員を含む大人たちや大勢の人の楽しそうな笑顔を見ることができました。この笑顔をたくさん見ることができたことが「良かった！」と言える何よりも理由です。

今年は、スタッフの思いも例年以上に強く、準備にも時間をかけてきました。私自身も強い思いを持って臨みました。1年をかけて会議を重ね、準備を行い迎える本番は、毎年のことながら感慨深いものです。今年も無事本番を迎えることができ、良かったです。



全体会では、大勢のこどもたちを前に説明しました

### ■とさっ子タウンは居場所・帰る場所

とさっ子タウンは、子どもたち、関わっ

ている大人たち、そして私自身にとってもひとつの居場所となっているということも強く感じました。

この事業は、毎年約400名の子どもが参加し、多くのスタッフが関わっているイベントです。リピートして参加してくれる子どもも多く、また、市民を卒業した子どもが高校生になったら今度はスタッフとして参加することも近年では珍しくなくなってきました。

県外に進学した人が、この事業の本番に合わせて帰省することも少なくありません。とさつ子タウンをひとつの帰ってくる場所と考えている人が多いこともこの事業の魅力のひとつだと感じます。また、帰ってきたいと思ってくれる人がいるのはとても嬉しいことです。

私自身も夏と言えばとさつ子タウン、この事業が終わったら夏も終わる、そういう風を感じています。それぐらい私の中で大きな存在です。

そして、この事業の活動に携わること、大勢の人と協力してイベントを作り上げていくことの楽しさを知りました。また、人と触れ合うことの大切さ、そして私がとても人が好きだということに気



左▲ 神奈川県藤沢市から、こども市民として参加の後、高知大学に進学し実行委員として参加した井出風ノ介さん

右▲ こども市民(二代目市長)として参加の後、高知大学に進学し当日スタッフとして参加した片岡優斗さん

づくきっかけにもなりました。とさつ子タウンはとても温かい場所です。そんなとさつ子タウンに出会えて良かったと心から思います。

とさつ子タウンは、これからも走り続けます。今後もこの事業に関わる皆さんにとって、ひとつの居場所であり続けますように。そして、これから関わり始める子どもたちにとっても新しい居場所になるように、これからも大切に、関わり続けていきたいです。



みんなの居場所 とさつ子タウン2018全員集合



『しばてん』姿で会場を巡る半田さん

# 98 高知豪雨から 20 年 ～真価を問われる災害支援の進化と深化～

寄稿 認定 NPO 法人 NPO 高知市民会議理事 山崎水紀夫<sup>みきお</sup>

98 高知豪雨から今年で 20 年、災害支援のあり方を考えるシンポジウム「98 高知豪雨から 20 年」地域の繋がり」と災害支援のあり方を考える」が、9 月 23 日、高知市布師田の高知ちばさんセンターで行われました。

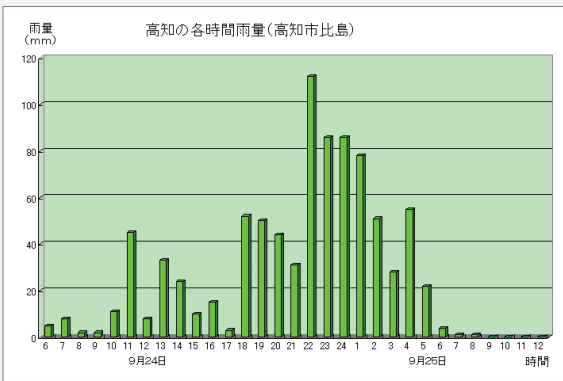
98 高知豪雨当日、私は降りやまない雨に不安を覚え、いつもと違う「想定外」の状況に、ただただ呆然としていました。あれよあれよという間に幹線道路が冠水。しかし、住民への情報も少なく、避難の呼び掛けや避難指示など、指示を出すタイミングに課題が残ったのではないだろうか。

20 年を経て、災害への対応やボランティアのあり方も、随分変化してきています。今回、水害や地震災害支援に長く携わってきた、認定 NPO 法人 NPO 高知市民会議の山崎水紀夫理事に災害支援の変遷について寄稿していただきました。災害時の支援のあり方について、改めてもう一度考えるきっかけにできればと思います。

(のむ)

## ■災害地支援の経歴

私の災害支援は 20 年前の 98 高知豪雨に遡る。この時に災害ボランティアセンター代表を務め、2001 年には土佐清水市、大月町で西南豪雨での支援を行った。こうした経験から災害が起きると現地に呼ばれるようになり、2007 年の能登半島地震からは中央共同募金会が事務局を担う災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の運営支援者（コーディネーター）として派遣されている。



2011 年の東日本大震災は自身 10 回目の被災地支援で、以後も毎年のように災害が発生し今年の北海道地震で被災地支援は 20 災害を数えた。

▲(左) 1998 年 9 月 24 日・25 日の高知市比島での各時間雨量 (高知気象台 HP より) (右) 98 高知豪雨当時の高知市大津の状況 (県警提供) 1998 年 9 月 24 日から降り始めた大雨は、時間雨量 129.5 mm、24 時間雨量 861 mm を記録し、床上浸水は約 12,000 世帯に及んだ。

## ■西日本豪雨支援の特徴

今年の西日本豪雨では発災直後の 7 月 9 日から 15 日まで被害の大きかった大洲市、西予市、宇和島市を巡回して被害状況を確認。その後、宇和島市の支援が決定し以降は週末を中心に 8 月中旬まで支援活動を行った。

宇和島市の被害は吉田町に集中しており、市街地は川の氾濫で濁流があふれ沿岸部は背後の山が斜面崩壊を起こす土砂災害だった。また水源の貯水タンクが破壊され 1 ヶ月に渡って断水が続いた。水がないと復旧活動に大きな支障がでると同時に生活に支障をきたす。給水は町の各所に農業用のタンクを設置し、各人が必要量をポリタンクに入れ持ち帰るといったものだった。ある独居高齢者の家を訪問したところ、必要な水は民生委員が家まで届けてくれたはいたが、トイレのタンクに給水できずペットボトルの水で流すため、汚物が流れないという状態が起きていた。

次に床上浸水の場合はそのまま放置する家が多かったが、床下の泥はすべて撤去するのが基本。放置すると湿気で畳がダメになったりカビが発生するなど衛生面で後々、悪影響を与える。床下の状況を確認して泥が入っている場合は撤去し、扇風機を活用するなど通気をよくして乾燥させた後で消毒という手順になるがそのまま放置している世帯も多く、今後の健康被害が心配だ。

## ■災害ボランティアセンターの進化と深化

この 20 年間で災害ボランティアセンターの形も大きく変わった。98 高知豪雨の頃は家屋復旧がメインだったが、近年は生活支援が重視されるようになった。「泥を見ずに人を見よ」という言葉が生まれたように、単に家を復旧するだけでなく、

そこにいる人に寄り添って支援することの重要性が求められている。特に復元力が弱い要配慮者への寄り添い支援をどう行うかで真価が問われている。

個々に寄り添うということはそれぞれの置かれた環境や地域性を重視することであり、マニュアル重視では個々に寄り添うことはできない。それぞれの立場になつて考え判断する力が求められている。

次に他機関との協働である。災害支援は総力戦と言われるように、建築・法律・保健・衛生など総合的な支援が必要となる。縦割りの支援を横糸に紡ぐことが求められる一方で個人情報保護という大きな壁が支援を阻んでいる現実があるが、現場では情報共有会議を持つなどして横断的な支援を心がけている。

また、復旧作業に関しては近年はリスクマネジメントの徹底が求められるようになり、一般ボランティアができる範囲に限られるようになった(20年前前はリスクマネジメントが良くも悪くも曖昧で一般ボランティアがなんでもやっていた)。例えば地震においては屋根の上のブルーシート張り(高所作業・危険)、被災建築物応急危険度判定で赤紙(余震で倒壊の恐れあり)を貼られた建物での対応。水害においてはフローリングの泥だしや重機が必要な現場など、近年は重機ボランティアなど専門的な技術を持つ団体も増えており、そうした専門ボランティアとの連携なくしては復旧活動ができない状況が生まれてきている。

災害ボランティア活動は常に進化と深化が求められる。支援のあり方の真価が問われている。



▲上4枚の写真は、9月23日高知ぢばさんセンターで行われたシンポジウムの様子。98高知豪雨当時関わっていた6人(高知新聞社論説委員の高橋誠さん、認定NPO法人NPO高知市民会議理事の山崎水紀夫さん、98年度高知青年会議所理事長の吉村文治さん、高知県社会福祉協議会職員の半田雅典さん、大津地区民生委員児童委員協議会会長の田所稔さん、宅老所たんぽぽ大津代表の橋本幸枝さん)が登場し、それぞれ当時の体験を振り返り、地域の自主防災組織メンバーら約80人が聴講した。災害弱者への対応など、きめ細かな支援の大切さを共有した。

※98高知豪雨の位置づけ。  
全国的には日本初の水害ボランティアセンター(福島・栃木・高知)を設置。災害ボランティアセンターの運営3原則(被災者本位・地元主体・協働)が形作られた災害と評価されている。高知県内においては高知のボランティア元年と言われる、98高知豪雨をきっかけに市民活動のネットワークが形成され、高知のボランティア・NPOは全国でもトップクラスと言われるようになった。

## 空き店舗を利用した昔懐かしいお店を再現

～昭和の時代にタイムスリップ「えびす昭和横丁」～

香美市土佐山田町にある「えびす商店街」で、毎年9月の第3土日に開催されている「えびす昭和横丁」を取材しました。以下実行委員長の寺村勉さんに「えびす昭和横丁」を始めたきっかけや企画にあたってのポイントなど語っていただきました。

### ■元気な仲間を創り、まちに魅力を

「えびす昭和横丁」は、一過性のイベントではなく既存商店が主体となつて継続的かつ定期的に展開していくことを目的として、平成14年9月に第一弾を開催しました。当初は年に2〜3回行っていたのを、今年で21回目になります。第一弾はたった4店舗しかなかったのですが、今では約20店舗が並ぶイベントとなりました。

### ■地域の人達を巻き込む

えびす街協同組合とNPO TRAND、その他まちが大好きな皆さんで構成されている実行委員会が主催となり、趣向を凝らした様々なイベントや出店を企画しています。近年では、山田高校や高知工科大学の学生にも協力いただき、約60人のスタッフで運営しています。

### ■月光仮面は誰でしょう

第三弾から登場した月光仮面は、大人の自分達が幼少時代に夢中になつて見ていたヒーローです。月光仮面が子ども達をリヤカーに乗せて、昔の商

店街を語る昭和探検隊から始まりました。今では地元の子も達は、月光仮面を知っています(笑)。小学生だった子ども達が今では成人し、もしかしたら結婚して子どもが出来て親子二代で遊びに来てくれているかもしれません。

### ■なぜやっているのか?

依頼があれば、えびす出前授業と題して月光仮面と山田小学校に行き、なぜ「えびす昭和横丁」を継続してやっているかを子ども達に伝えています。はずしてはならないポイントは、①空き店舗を無くしたい②元気な商店街にしたい③みんなで楽しくやりたいということです。大人の私たちが楽しんでやっているのでこれまで続いてきたのかもしれない。せつかく東西に長い商店街があるので、昭和の時代を懐かしむことができる魅力ある町並みで、ふと安らぎを感じさせる。それを求めてやって来る人々。そんなまちができればと想います。

### ■感想

今年はずっと晴天に恵まれ、商店街に活気が戻り沢山の人がにぎわっていました。昭和の懐かしい味とレトロな雰囲気を楽しめるので、老若男女問わず楽しむことができます。皆さんもぜひ遊びに行ってみてください。

(ついで)



▲山田小学校でえびす出前授業の様子 (正面向かって左が寺村実行委員長)



▲昭和30年代のえびす商店街



▲平成20年開催の「えびす昭和横丁」 (左の写真と同じアングルで撮影)

えびす昭和横丁ブログ <https://blogs.yahoo.co.jp/ebisushouwa>

Facebook は「えびす昭和横丁」で検索

## ボランティアと出会う場所

### ボランティアガイダンス 2018

10月14日に高知市保健福祉センターで「ボランティアガイダンス」というイベントが行われました。

このイベントは「自分に合ったボランティア活動を見つけた人」と「ボランティアを募集したい団体」との出会いの場です。

私もボランティアで司会をさせていただきました。

#### ■ボランティア「はじめの一步」講座

初めに市川真千さん（NPO高知市民会

「始めるきっかけ」、「ボランティアをする際気をつけたいこと」の4点をわかりやすく話してくださいました。



高知県内で活躍するいろいろな分野から12団体が出展し、沢山の方に参加していただきました。

#### ■ボランティア団体の活動紹介

講座の後は、団体の方が2分間の活動紹介をします。短い時間で自分たちの活動内容を話すのは難しいと思いましたが、2分で話し終えることができる 団体が多く居

てびっくりしました。中には時間内に終わることのできない団体もありましたが、市川さんのインタビューで引き続きその件について聞くことができました。

#### ■団体のブースごとに個別相談

活動紹介の後は30分ほどのフリータイムです。参加者が興味を持った団体に詳しく話を聞きに行く時間です。皆さん意欲的に話を聞きに行っていました。どの団体も目を輝かせて活動内容を話していました。会場には生き生きとした雰囲気があり、これから各団体や高知がどんどん盛り上がっていきそうだなと感じました。

#### ■自分の特技を生かして

フリータイムの時には私も何箇所か話を聞きに行きました。その中でも特に印象に残ったのはNPO法人高知県生涯学習支援センター「学び場人材バンク」部門さん。ボランティアは講師として子どもたちに出前講座をします。講座内容は人それぞれで自分の得意なことを子どもたちに教えています。現在、講座内容は本の読み聞かせ、昔遊び、工作・手芸、自然観察、スポーツ、ジャグリングなど多岐にわたっています。

手芸や白磁の絵付けを教えている方が

「ここは自分のやりたいことをやらせてくれる場所」と力強く熱のある様子でおっしゃっていました。その姿を見て、自分が好きなことを子どもたち相手に教えるのは大変な事もあるだろうけど楽しそうだなと思いました。

#### ■感想

今回のイベントで私自身も色々な団体の方と話すことが出来たので、参加できて良かったです。高知には私の知らないボランティア団体が沢山あるので、これからもこのような機会を大切にしたいと思います。（国際デザイン・ビューティカレッジ

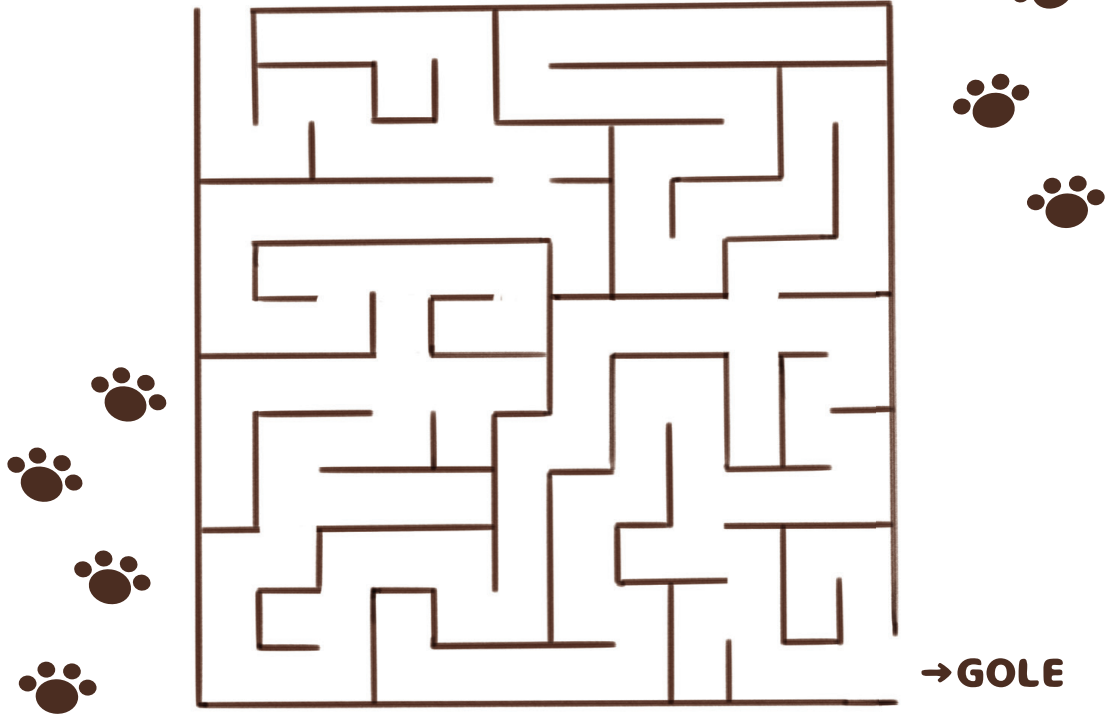


NPO 法人高知県生涯学習支援センター「学び場人材バンク」部門さんには、12名ほどが話を聞きに行かれて、その場で5名の方が登録されました。

マンガ科 もうり)

# ★迷路★

START ↓



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。  
URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

## つぶやき



@すずき

地震に台風・大雨、今年は全国的にいろいろな災害がありました。今度帰ったら、おばあちゃんちにも防災袋を準備してあげよう。



@大久保

〇〇の秋と色々あります。私は読書をしてからその本にでてきたお稲荷さんを作って食べました。1番好きな季節です。



@有光

最近、朝晩一気に冷え込むようになりましたね。先週、沖縄旅行から帰ってきた自分にとっては、とても寒く感じます…。



@横田

最近、些細なことでも頭に「平成最後の」をつけてプレミア感を出して楽しんでいる。憂うつな大掃除も「平成最後の」をつけるとやる気が湧く…かな？

発行

高知市市民活動サポートセンター

企画編集

認定特定非営利活動法人  
NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかしよう庁舎2階  
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : [info@shiminkaigi.org](mailto:info@shiminkaigi.org)

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



@みやわき

お鍋の季節になりました。水炊き、寄せ鍋、キムチ鍋……毎年、定番のローテーションに陥るため、新しいお鍋のレシピを見つけたい～。



@しのみや

近年、県外にすることが増え、いろんな風土に触れるが、その都度、高知のよさを痛感する。



@おおの

空気が澄んで星がキレイに見える季節。オーテピアのプラネタリウムを観た後、星空を見上げるとより楽しくなりそう(\*0▽0\*)